



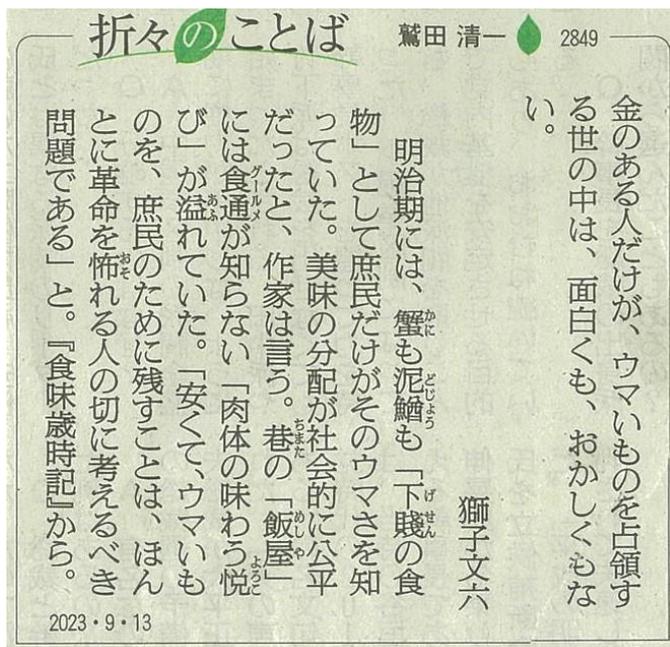
YIC 調理製菓専門学校長 須内章雅
Sunouchi Akimasa

○ シーフード

第24回シーフード料理コンクールが今年も開催されます。昨年は水産庁長官賞という名誉な賞を獲得しました。多くのメディアにも取りあげられて学校全体が嬉しい思いに包まれました。今年も応募します。昨年のことがありますので、今年のお応募は微妙なプレッシャーのもとレシピを考えたのではないかと想像します。9月22日が応募締め切りということで作品(料理名)が出そろい、発送も済みしました。イラストはなしで右に紹介してみます。読んでいただけでどれも入賞しそうな名前だと思えます。書類審査結果が届くのが楽しみです。

○ 「ことば」から

また、引用してみます。調理製菓と関わりのある仕事をしていますので「ウマイもの」ということばに反応してしまいました。解説文の内容にはあえて触れませんが、食に関わる仕事に携わっている人はいろいろなことを考えるでしょうね。



- 旨みたっぷり健康リゾット
- アジとレンコンのコロッケ
- 鮭のホイル焼き
- サバのムニエル
- アジとトマトのあえ物
- まだこまだこごぼろ
- 鱈の刺身
- 鮭の南蛮漬け
- 鯖ハンバーグ
- あじのトマトソース焼き
- カワハギのポワレ 肝ソース
- タコのカルパッチョ
- イカと野菜のバター炒め
- 瀬戸貝パスタ
- 天津 DE 鯛炒飯
- シーフード炒飯
- 萩の宝石：金太郎クンと夏みかん推し！寿司
- アジのポワレ
- アジと玉ねぎの卵とじ丼
- 瀬戸内レモン香るクリームコロッケ
- 鮭のホイル焼き
- タコとサーモンのカルパッチョ
- タコと野菜のガーリック炒めと卵チャーハン
- 鱈の味噌叩 しそ巻きカナッペ
- れんちょうのゆずきち胡椒と大葉巻き
- えびコロッケ
- 萩産イカとたけのこ煮
- ぐんじの唐揚げ

○ 自校自賛

学生たちが考えた上記の料理を自賛したいと思います。入選・入賞してほしいものです。

今回の植物：ムラサキシキブ(紫式部)

本校の畑で育てているものです。腰くらいの高さですがたくさんの実をつけていました。名前が優美ですね。

余談：ある朝、学生との立ち話の中で「2001年宇宙の旅」という映画について投げかけてみました。残念ながら「分かりません」との返事。無理もないですね。現在のほとんどの学生は2001年以降の生まれですから。参考までにかつてのたよりを裏面に紹介します。このたよりもすでに10年近く前というのがなんとも言えません。





○ 21世紀のこと

「2001年宇宙の旅」という映画をご存じでしょうか？スタンリー・キューブリック監督のもと制作され、1968年に公開されたものです。木星を目指す宇宙船でのできごとが描かれていたように記憶しています。内容の詳細は省略しますが、電卓すらあまり普及していなかった時代にコンピュータ制御の機器も描かれ、21世紀の未来はこんな世界になっているのかと、ドキドキしながら観賞した私です。（もっとも制作時はまだ小学生であり、実際に私が見たのは二十歳を過ぎてからのリバイバル上映でしたが…）

ただ、いわゆる SF ものはこの映画だけでなく、手塚治虫さんをはじめとした日本の漫画家たちもたくさん個性的な作品を発表していました。子どもだった私はそれらの物語に熱中していました。小学校のグラウンドに毎日ロボットの設計図を描いたり、宇宙船を描いたときはコックピットに乗って操縦していました。そのとき、私は（頭の中では完全に）空を飛んでいました。

現在の生活と40数年前に想像した社会とを比べてみると、今は昔とあまり変わっていないような気がします。人間という生物が生きていく環境はそれほど変わるものではないのかもしれませんが、変わってはいけないのかもしれませんが。しかし現在の情報機器の発展に関しては、昔の人の想像以上でもあると思います。本当に便利になったものです。ただ、使い方に気をつけなければならないことも増えてきました（今までにも何回かふれましたが…）。“LINE”を悪者にするつもりはありませんが、冷静に利用しなければなりません。そういえば「～宇宙の旅」の中の“HAL”も大変怖い存在でした。

私事ながら、この正月は「かぐや姫の物語」を見ました。これは日本の古典的な SF ものといえるかもしれませんが。日本人なら誰もが知っているストーリーのままでしたが、私は子どもの頃に感じたものとは違う不思議な感動を覚えました。時と空間を超えた想像をしたりした年末年始でした。

始業式では、「21世紀に生きる君たちへ」というような話をしました。今の中学生は1998年～2001年に生まれた人たちです。昔の私から見たらもう立派な未来人です。でも昔と同じように笑い、泣き、悩み、感動しながら成長しています。生き物の本質はそう簡単には変わりません。すぐれた芸術（美術、音楽、文学その他すべて）は時代を超えて、よりよき人生を送るための参考書（？）ともなります。できるだけ多くのものにふれて生きていきたいですね。

ワーナー・ホームビデオから引用



～以下省略～